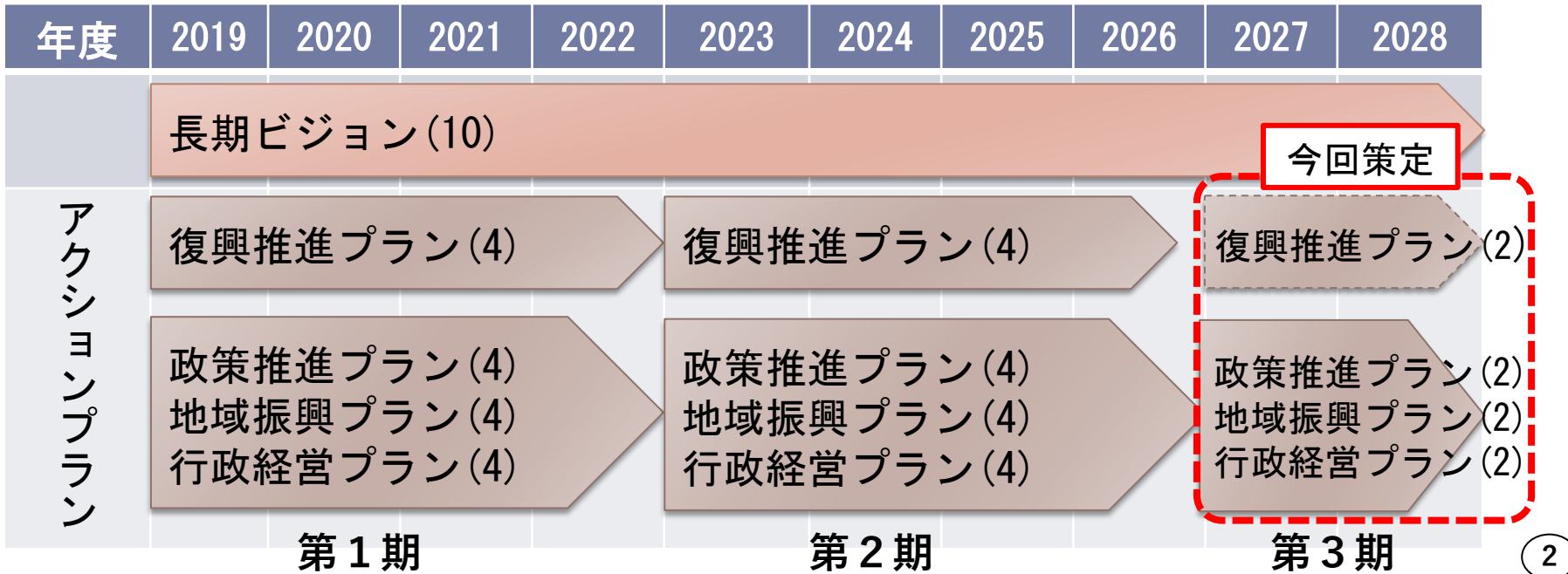


「いわて県民計画（2019～2028）」 第3期アクションプランについて

令和8年9月
岩手県
(長寿社会課)

1 いわて県民計画（2019～2028）の構成

長期 ビジョン	長期的な岩手県の将来を展望し、県民みんなで目指す将来像と、 その実現に向けて取り組む政策の基本方向を明らかにするもの [計画期間：2019年度から2028年度までの10年間]
アクション プラン	長期ビジョンの実効性を確保するため、重点的・優先的に取り 組むべき政策や具体的な推進方策を盛り込むもの 復興推進プラン 政策推進プラン 地域振興プラン 行政経営プラン



2 計画の理念

- 県民一人ひとりがお互いに支えながら、幸福を追求していくことができる地域社会の実現を目指し、幸福を守り育てるための取組を進めること
- 地域社会を構成するあらゆる主体が、それぞれ主体性を持ち、共に支え合いながら岩手県の将来像を描き、その実現に向けて、みんなで行動していくこと
- 社会的に弱い立場にある方々が孤立することのないように、社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の観点に立った取組を進めること

I-3 基本目標

**東日本大震災津波の経験に基づき、
引き続き復興に取り組みながら、
お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて**

3 政策推進の基本方向

主観的幸福感に関する12の領域をもとに、「健康・余暇」から「自然環境」までの8つと、これらを下支えする「社会基盤」「参画」を加えた10の政策分野を設定。

各政策分野に、幸福に関連する客観的指標(いわて幸福関連指標)を定め、一人ひとりの幸福を守り育てる取組を展開。

保健福祉部関係

I 健康・余暇 健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手

II 家族・子育て 家族の形に応じたつながりや支え合いが育まれ、また、安心して子育てをすることができる岩手

III 教育 学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばし、自分の夢を実現できる岩手

IV 居住環境・コミュニティ 不便を感じないで日常生活を送ることができ、また、人や地域の結び付きの中で、助け合って暮らすことができる岩手

V 安全 災害をはじめとした様々なリスクへの備えがあり、事故や犯罪が少なく、安全で、安心を実感することができる岩手

VI 仕事・収入 農林水産業やものづくり産業などの活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、また、やりがいと生活を支える所得が得られる仕事につくことができる岩手

VII 歴史・文化 豊かな歴史や文化を受け継ぎ、愛着や誇りを育んでいる岩手

VIII 自然環境 一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手

IX 社会基盤

～防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤が整っている岩手～

X 参画

～男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などの活躍、幅広い市民活動や県民運動など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手～

4 第3期アクションプランの策定

➤ 県では今年度、以下の基本的な考え方等に基づき、「第3期アクションプラン(令和9年度～10年度)」を策定することとしています。

■ 基本的な考え方

- ① いわて県民計画（2019～2028）の終期を見据え、第1期及び第2期までのアクションプランの評価結果や東日本大震災津波からの復興の進捗、人口減少の進行など社会経済情勢の変化等を踏まえ、策定する。
- ② 地域内外の方、市町村、企業、団体等、様々な主体から広く意見を伺う。

■ 第3期アクションプランの方向性

第2期アクションプランの取組の成果や社会経済情勢等を捉え、**強みを有する領域を更に伸ばす**とともに、長期ビジョンに掲げる基本目標の実現に向けて、10の政策分野全体の底上げを行う。

【参考】県の議論の状況（保健福祉部当課関連部分抜粋）

➤ 「政策分野Ⅰ：健康・余暇、政策分野Ⅱ：家族・子育て」の2分野について、保健福祉部では、特に強化すべき事項の案を整理しています。

①生活習慣の改善及びメンタルヘルス対策の強化【分野Ⅰ：健康・余暇】

【課題認識】

- ◆ 健康寿命や、がん、心疾患及び脳血管疾患で死亡する人数並びに自殺者数について、改善は見られるものの全国比較では低位
- ◆ 人口減少・高齢化により高齢者が社会の重要な担い手となるとともに、働き盛り世代から高齢者までの食生活や運動機会等の生活習慣改善やメンタルヘルス対策の必要性も高まっている
- ☞ 地域社会や経済活動を支える担い手が心身ともに健康に活躍できる環境を確保していくことが課題

【強化したい取組】

企業や市町村、関係団体と連携しながら、働き盛り世代から高齢者までライフステージに応じた予防的な健康づくりを推進し、心身の健康の維持・向上を図る

強化の視点

高齢化の進展に伴う介護需要の増加

→ 介護予防の取組の強化が求められている

「介護予防」に関する県民の機運醸成

【参考】県の議論の状況（保健福祉部当課関連部分抜粋）

②医療・介護人材確保及び生産性向上の取組強化【分野Ⅰ：健康・余暇】

【課題認識】

◆ 高齢化の更なる進展により医療・介護需要が増加する一方、医師、看護職員、介護職員などの人材不足や医療機関・社会福祉施設の厳しい経営環境が見込まれる

☞ 持続的なサービス提供体制の確保が課題

【強化したい取組】

専門職の人材確保支援と、DX・ICT活用等による業務効率化や勤務環境改善を一体的に進め、現場の生産性向上につなげていく

強化の視点

生産年齢人口の減少等に伴う介護職員数の減少
→ 介護人材確保に係る取組の一層の推進が
求められている

- ・ 多様な人材の参入促進・定着支援の強化
- ・ 潜在ケアマネジャーの実態把握
- ・ 介護テクノロジーの活用等による労働環境改善の推進

【参考】県の議論の状況（保健福祉部当課関連部分抜粋）

③孤独・孤立リスクに対する支援体制の強化【分野Ⅰ：健康・余暇】

【課題認識】

- ◆ 自殺者数について減少は見られるものの全国比較では低位に位置し、こころのケアセンターの相談件数も増加
- ◆ 単身世帯の増加や地域のつながりの希薄化、人口減少に伴う地域の支え合い機能の低下等により孤独・孤立の深刻化
 - ☞ 心身の健康悪化や生活困窮、自殺リスクの高まりを防ぐため、社会的つながりを持続的に確保していくことが課題

【強化したい取組】

専門職の人材確保支援と、DX・ICT活用等による業務効率化や勤務環境改善を一体的に進め、現場の生産性向上につなげていく

強化の視点

頼れる身寄りのない高齢者の増加が今後見込まれる
→ 高齢者の孤独・孤立対策が求められている

- ・ 高齢者の日常生活支援や権利擁護支援の充実
- ・ 地域全体で頼れる身寄りのない高齢者を支援する仕組みづくりの推進